

令和3年 第12回総務経済常任委員会会議録

令和3年9月10日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) 新八雲（仮称）駅に係る駅舎デザインコンセプトについて（新幹線推進室）
- (2) 黒岩地区A対策土受入地における「受入基準値超過」対策土の仮置きに係る「未報告」について（新幹線推進室）

○出席委員（5名）

委員長	三 澤 公 雄 君	副委員長	牧 野 仁 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	宮 本 雅 晴 君		

○欠席委員（1名）

田 中 裕 君

○出席委員外議員（5名）

副議長	黒 島 竹 満 君		関 口 正 博 君
	佐 藤 智 子 君		
	赤 井 睦 美 君		千 葉 隆 君

○出席説明員（2名）

新幹線推進室長	鈴 木 敏 秋 君	推進係主事	岡 島 孝 明 君
---------	-----------	-------	-----------

○出席事務局職員

事務局長	三 澤 聡 君	事務局次長	成 田 真 介 君
------	---------	-------	-----------

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（三澤公雄君） 時間になりました。第12回総務経済常任委員会をはじめます。

【新幹線推進室職員入室】

◎ 所管課報告事項

○委員長（三澤公雄君） まずは、新八雲（仮称）駅に係る駅舎デザインコンセプトについて、新幹線推進室から報告をお願いします。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） それでは、新幹線推進室として、はじめに、新八雲駅に係る駅舎デザインコンセプトについて、ご報告いたします。

大規模な建築物の整備設計にあたってはですね、基本構想、基本設計、実施設計の手順を経ることが一般的であります。新幹線駅の整備にあたっては機構はですね、基本構想段階で地域性等を活かしたいとして、設置地元市町村の意向を聞き取りしているというところでもあります。

札幌延伸に関わる駅整備に関しては、本年度がその意見の取りまとめ調整するという年でありまして、八雲町における意見、その取りまとめ方法について、考え方をご報告したいと思っております。それでは係からご報告します。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） 推進係。

○委員長（三澤公雄君） 推進係。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） それでは、新八雲（仮称）駅に係る駅舎デザインコンセプトについて、ご報告させていただきます。

別添資料に行く前に、まず表紙の説明をさせていただきます。まず、そもそもデザインコンセプトはということなんですけれども、直訳すると意匠概念ということで、建築物の構造、外観など基本的な骨格となる考え方を指すものであります。

鉄道・運輸機構は、駅舎の設計について、地元自治体の意向を参考に行うものであり、その聴取方法として、駅設置自治体に、いわゆるデザインコンセプトの提出を求めているものであります。駅設置自治体としては、新駅に地元ならではの外観イメージなどについて意見反映できる機会ということになります。その後、デザインコンセプト決定後は、具体的な機構のほうですけれども、作業に移り、構造上、経済性も考慮され最終的な設計ができるものであります。

次に、デザインコンセプト決定までの経緯と、今後の流れでございますけれども、本年、令和3年5月7日に、町は鉄道・運輸機構からデザインコンセプトの作成依頼文を受理しております。その後の流れとしましては、この表紙の下段にある図を参考にさせていただければと思うんですけれども、駅周辺整備推進会議でこのデザインコンセプトを揉みながら骨子案を作成しまして、町民に意見聴取を行います。その後、議会へ報告しつつ令和3年度末までに機構へ、そのデザインコンセプトを回答する予定であります。その後、令和4年度以降になりますけれども、機構よりデザイン素案を、だいたい3案程度になりますけれども、受理します。受理したのち同じように推進会議等で

議論し1案を選定します。選定したのち機構へ、この推薦案を提示しまして、駅舎のデザインが決定するという流れになります。

最後に、八雲町の考えとしましては、平成30年度に策定した北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画の趣旨に沿って、デザインコンセプトを決めていくと考えております。また、推進会議で意見を求め、その意見をデザインコンセプトにできる範囲でございますけれども、反映させていくという流れで進めて行こうと考えております。

次に2枚目の別添資料なんですけれども、町内の各産業団体等で組織している駅周辺整備推進会議委員の皆様からアンケートを取っております。基本計画では牧場の中にある駅だったり、牧歌的風景というキーワードはあるんですけれども、具体的にどういうものを想像しているかという意思を確認、あとは推進会議として統一したいという気持ちから、アンケートを取っております。

この表がその結果になりますけれども、牧歌的風景とか牧場の中にある駅の、たとえば時代感はどういうものとか、イメージ、あとシンボル、かたち、色合い、あとその他どういうものが想像できるかというアンケートを取りまして、この表のようにまとめております。相反する結果も中にはありますけれども、たとえばその他の欄にですけれども、開放感あふれる駅とか、鮭が昇る川が見える駅など、そういった様々なご意見をいただいております。

これらを基に、(2)のようにデザインコンセプト(案)でございますけれども、考えております。まだ案の段階なんですけれども、メインテーマとしては、牧場の中にある駅と、ストレートに表現しようと思っております。それでサブテーマとして、二つの海を持つ八雲、牧歌的風景に調和したスリムな駅、コンパクトな駅、こういったことを考えております。

鉄道・運輸機構へ回答する際には、アンケートを取った表をそのまま載せるか、ちょっと整理したものを掲載する予定です。具体的に付帯意見として表の、その他に書いているものを付帯意見に盛り込んでいこうかなと考えております。

最後に、2枚目の資料の裏面になるんですけれども、参考までに北陸新幹線の福井駅のデザインコンセプトとサブテーマ、あと付帯意見になっております。八雲町としても、こういったかたちで機構のほうへ回答しようと思っております。以上で報告を終わります。

○委員長（三澤公雄君） 報告が終わりました。皆様のほうから何か意見ありませんか。

この新幹線駅に関して選ばれた委員さんたちが決めるんでしょ。この議会はそういう経過を報告してもらって、なるほどなっていうところくらいなんでしょ。どういうポジションだっけ。僕ら総務経済常任委員会って。

○委員（大久保建一君） ただ報告を受けるだけじゃないの。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） 推進係。

○委員長（三澤公雄君） 推進係。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） もちろんご意見があればですね、それを伺いまして、反映できる部分に関しては、反映していきたいと考えております。同様に町民に対してもですね、ご意見をいただきますので、反映できる範囲で盛り込んでいきたいと考えております。

○委員長（三澤公雄君） パブコメはもうやっているってこと。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） パブコメはやっておりません。

○委員長（三澤公雄君） 揚げ足取りで悪いんだけど、じゃあどういう段階で町民の声を聞いているの。委員を通じて。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） 推進係。

○委員長（三澤公雄君） 推進係。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） これからです、骨子案を作成するんですけれども、その作成できた段階で、町のホームページ等でご意見を伺おうと考えております。この表でいくと、推進会議と右に骨子案と書いていますけれども、そこで町民の意見聴取を行いたいと思っております。

○委員長（三澤公雄君） なんかありませんか。

ハラハラしてこの報告書を読んでいたんだけど、牧場が見える駅をずらされなくて良かったなど。唯一無二。そういうことですよ。基本的にはそういうところからずれていないんですよ。牧場の中の。そうでしょ。

○新幹線推進室推進係（岡島孝明君） 基本計画から、それに沿って。

○委員長（三澤公雄君） 僕はばっちりイメージできてるんだけどね。イメージできていない人にとっては、なんのこっちゃと未だに言われるから。はい。ほかにありませんか。なければ①はこれで終わります。

②黒岩地区A対策土受入地における、受入基準値超過対策土の仮置きに係る未報告について、新幹線推進室から報告をお願いします。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） これについては、追加で皆様方にご提出いたしましたので、事前配付とならなかったことについては、お詫び申し上げます。事前配付にならなかったという部分でいけばですね、本件は三澤委員長のもとに、町民から耳にされたということで、委員長から議会に報告する旨ご指導いただいたものでありまして、昨日の本会議等も含めてですね、議員皆様にご疑念を抱かせる結果となりましたことについて、お詫び申し上げたいというふうに思います。

それでは説明させていただきますが、未報告であった案件でありますけれども、黒岩A対策土受入地、黒岩Aというの一番最初に、平成30年に受入決定とした対策土受入地、黒岩でありますけれども、本年4月からこの黒岩の受入基準値を上回る対策土が仮置きとしている件であります。この件について、詳しくご説明いたしたいと思っております。

仮置きとした対策土でありますけれども、重金属はヒ素であります。ヒ素の溶質に関わる土壤環境基準でありますけれども、1リットル当たり0.01g当たり、その基準値を順守するため黒岩での受入れ可能な対策土の上限値は、1リットルあたり0.16mgであります。それに対して今、仮置きとなっている対策土が、溶出量が最大で0.35mg。最小値はほんのわずかですけれども0.002mgという試験結果が出たものを今、仮置きとなっているものであります。

仮置きしている位置、場所ではありますが別添の図面をご覧くださいと思います。受入地の黒岩Aは3か所に細分化されていまして、その中央に位置する盛土地、②の中段に置いているところであります。この仮置きした工事はですね、本年3月26日から4月2日にかけて、受入基準値を超過していると判断される対策土を余裕をもって、地下2mまで掘削して、その掘削した対策土をすぐ隣に遮水シートを敷いた上に、かたちというんですか、盛り方ですけれども、20m×43m、高さ2mの楕円形上に積んでですね、ブルーシートで囲い込みしたものであります。土量は1,640m³であります。図面では1mと示してありますけれども、2mの誤りです。工法としては、シートで囲い込みをしておりますので、基本的にこの仮置きから出水はないものでありますけれども、覆って

いるシートに、その上に降った雨水がですね、この長方形の仮置きを取り囲むように排水路が設置されておりまして、その排水路が地下の埋設管を通り、汚濁水の処理施設に繋がり、最終的に排水されているというような状況であります。この排水の水質については、仮置きの直後の4月は週1回実施し、その結果に問題はなかったところであります。5月は2週間に1回とし、これも同じく問題がなかったことからですね、6月以降は通常の検査回数の月1回としているところです。もちろん6月以降についても水質に問題があったわけではありません。全く問題がないとなっております。

この受入れ上限値の超えた対策土の発生の要因でありますけれども、昨年、盤石トンネルの掘削において、基礎濃度が高い発生土が発生したわけであります。それについては別途対応を講ずる必要がある訳でありますけれども、誤って黒岩へ搬入してしまいまして、その直後にそれがわかりまして、ただちに黒岩から搬出してまた元に戻したわけでありますけれども、その黒岩の置いた場所の下層の土壌をですね、調査しました。その結果は批准が高くなっていたというところですよ。

要因としては、本当に置いた期間がわずかな期間であったんですけれども、その期間、天候が雨でありまして、雨水の浸透によってヒ素が溶出してしまったという可能性が否定できなかったところあります。季節がですね、降雪期、雪の降る季節に迎えたものですから、また雪の解けたあとにその調査をもう一回やる必要があると。そのうえで対応を取ることになったわけあります。その雪解け後の調査結果が先ほど申しました数値でありまして、余裕をもって地下2mまで調査したところ、地下2mでは1リットル当たり0.002mgで全く問題がないということが確認できましたので、余裕を持った2mまですき取って仮置きしたというところあります。

この対策土の処理の方法についてはですね、機構の設計部門の上部のほうの専門委員会で審議決定されるというところでありまして、現在はまだ検討中であるということで、詳細については知らされていないというところあります。

次に、未報告となってしまった経緯、理由でありますけれども、機構としてはですね、八雲町に逐次、詳細に報告があったわけあります。ただ、最終的な仮置きするまでの取扱いについてはですね、雪解け後に検討・対応するというものですから、それまではどのようにするかということで留保していたわけありますけれども、4月7日の報告があったときにですね、先ほど言ったような工法で●●したわけありますけれども、私の段階で仮置きの工法等が、下が遮水シートで、上がブルーシートで完全に囲い込まれているというようなこと、それと水質検査が、基本的にそこから出水するということがないにしろ、水質検査をちゃんと実施するというものでありますので、管理が適正だと判断して、その時点で議会報告等について、軽率でありましたけれども、ちょっと考えに及ばなかったというところあります。

結果的に議会に対しましては、失礼な判断であったということでありまして、その後の事務的な対応にも誤りを招いたということだと思っております。

以上で、遅ればせながら報告としたいと思っております。

最後に、今後は慎重な判断をとるように努めたいと思います。議員皆様に対してはですね、不誠実な対応となってしまったこと、ご不快な思いをしたことについては、お詫び申し上げたいと思っております。申し訳ありませんでした。以上であります。

○委員長（三澤公雄君） 報告が終わりました。委員の皆様からなにかありますか。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 盤石トンネルから出たものを仮置きした結果の溶質基準なのか、それとも搬出された後の、そこにあった要対策土を2m掘ったものの溶質試験結果なのか、どちらでしょう。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 説明が若干足りなかったようです。申し訳ありません。この0.35mgから0.002mgというのは横田委員が申されました、後段のほうでありまして、トンネルから出たものについては、トンネルの工事のほうに戻しましたけれども、そのトンネルの工事から出たものを、わずかの期間置いていたがために、下も普通の、普通のといったらおかしいですけれども、対策土のほうに雨水を通して浸透してしまったものがある。それを今、処理方法が決まるまで横のほうに完全に囲い込みをして仮置きしている状況であります。

○委員長（三澤公雄君） ということは、仮想2mまで掘削したこの土砂が仮置きしている土砂。本体は盤石に戻したということですね。いいですね。横田委員。

○委員（横田喜世志君） もう一点聞いていい。

○委員長（三澤公雄君） どうぞ。いいですよ。

○委員（横田喜世志君） ということは、盤石トンネルから出たヒ素の基準超えの土というのは、どの程度ヒ素を含んでいるか、わかっているんですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 盤石トンネルのほうの発生土の関係でありますけれども、トンネル掘削前の事前調査で、通常この黒岩でも処理できるものがあって大丈夫だという試験結果で進めていたわけでありまして、トンネルを掘削中に、すでに真横に次に向かうところの溶出調査をする訳ですけれども、その溶出調査の中で一点というか、簡単に言えば10m区間だけ、超過した、結構高い数値で超過したものがあったということでありまして、それが問題を発生した元々の対策土であります。それで今、議員がご質問の溶出濃度でありますけれども、これについては最大値で1.3mgのものであります。

○委員（横田喜世志君） もうすこしいいんですか。

○委員長（三澤公雄君） いいですよ。どうぞ。

○委員（横田喜世志君） 今10m区間だけに含まれたとおっしゃいましたけれども、その量はどの程度なんでしょうか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） この10m区間、10m区間の量、区間の量というよりも、黒岩に誤って持ってきた量、これは500m³。それで持ち帰るときもですね、余裕をもって持ち帰っております。それで持ち帰った量が800m³。というところであります。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） それはわかりますけれども、元々基準以上のやつが、いくら発生しているのかというのが。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） この10m区間の工事量が問題だということでもありますから、計算はしていませんけれども、500 m³ちょっとはあったということだと思います。

○委員長（三澤公雄君） いいですか。ほかに質問する方。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） この地区の環境汚染に関して、監視する団体って何人いましたっけ。山崎地区の。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 黒岩の受入地の監視団体ということだと思いますけれども、基本的には一般廃棄物の監視団体がここの受入地についても監視というか同時に見るといえるのか、調査するというようなことで担っているという。

○委員（大久保健一君） 何ていう名前でしたっけ。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 名前ですか。すみません。山崎地区一般廃棄物監視協議会だったと思います。所管がちょっと。すみません。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） そしたら、その監視団体にはこの事実は報告されていたということではないんですかね。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 議会に対しましてもですね、その4月7日の時点で私として問題ないということで報告しなかったということから、そちらのほうについてもですね、特段、報告ということはしていなかったということでもあります。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 多分、議会にも報告しなかったのもまずいかなと思いますけれども、そこに報告しなかったというか、事実を伝えなかったということが一番問題なんじゃないのかなと思うんですね。そこが多分、八雲の、その黒岩の地域住民の監視を担っている団体なので、正しいこと、事実は事実として伝えたいので監視してもらわないと、その機能が果たせなくなってしまうという考えは担当課として持たなかったんですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） すいません。考えを持つとか持たないかということにいけば、当然、現段階では委員がご指摘のとおりだと思いますけれども、とにかく私が7日の時点では適正

な管理をされているという中で、その報告というか、その団体にですね、通報というか、こういうことですよというようなことを伝えるということまでは、まったく考えに及ばなかったというのが事実であります。ですので、故意的なことではありません。単純に考えが及ばなかったと。その時点で。今言われれば委員ご指摘のとおりだと思います。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 事前の機構のほうとのあれなのかもわからないですけども、元々の設立、一般廃棄物のほうだとしても、この業務というか、こっちのほうの対策士の監視も担うということになった時点で、こういう不測の事態だとかという時には報告するという話し合いは事前にされてなかったの。そういう決まりごとはなかったんですかね。その時その時考えて、これは報告すべきだ、これは報告すべきじゃないというのは、その時その時のケースによるんですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員おっしゃるとおりでありまして、報告が必要だったと思います。何回も言いますが、単純に私がそこまで考えが及ばなかったということでもあります。

○委員長（三澤公雄君） 室長、先ほどから私の責任、私の責任と言っておりますけれども、ちょっと確認しますよ。10m区間だけ濃度が濃い500 m³のものが出たんですよね。これを搬入始めたのはいつですか。ここに書いている②は仮置きの実施日が書いてあるので、これが搬入された日時は書いていませんよね。前任者のところですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 今、もちろん委員長が言うとおりでありますけれども、町民の方が思っている部分については仮置きということだったので、それを主体的に書いたということでもあります。元々誤って持ってきた時期でありますけれども、昨年10月22日と10月23日です。ですが、すぐに戻したということで、その後の土壌調査等においてもですね、時間を要したという中で、雪が降ってきたということで、雪解け後の調査をもって、どれくらいすき取って、どれくらいの土壌が浄化して、どのくらいすき取らなければならないかというような対応も含めてですね、決定した時点で報告等を考えようということであったようです。その辺が私としては書類等を確認もせず、今後の、その時の管理の方法が適正だということ判断してしまって、こんな事態に陥ったというところでもあります。

○委員長（三澤公雄君） もう一度確認しますよ。令和2年10月22日から23日、500 m³といたらダンプ50台以上なんですけれども、盤石から黒岩のここまで運ぶのに1日ダンプって何台走ります。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 盤石から黒岩までの台数という部分では、押さえていませんけれども、今、黒岩にダンプ、要するに搬入土が来る車両の台数でありますけれども、約1時間に40台程度は来ているというような状況でありますから、ある意味この2日間で500 m³というのは可能というか、2日間フルに動いたら、もっといっぱい持って来れたんだろうということでもあります。

○委員長（三澤公雄君） 誤りに気付いた割にずいぶんたくさん運んだというのが最初のイメージだったので、今の1時間に40台運べると考えたら、そうかなという。

もう一度確認しますよ。この受入基準を超過した対策土を運んだのは去年の10月秋遅くだったということですね。それで速やかにそれは除去したと報告を受けていると。だけど除去したのが染みていることがわからなかったのかな。それで検査等がはっきりしたのが春ということ。もう一度ごめんなさい。10月22日に基準値を超えた対策土が運び込まれたあとの時系列を、もう一度説明してください。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 22日23日に運び込まれたということでありまして。それで、これが木曜、金曜だったんですね。それで休みも挟んで、すぐに27日火曜日から戻しをかけたんです。ただその間、雨がけっこう降っていたのはわかっていたと。ということで、置いてあった下側に溶出、溶けだしている可能性が高いということで、土壌調査を行わなければならないというようなこと。それで1回、2回と行ったわけですけども。

○委員長（三澤公雄君） その検査をしたのはいつ。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 1回目は、11月19日に採取したということでありまして。それで2回目は12月ということで、もはや雪が降ってきていたということでありまして。

○委員長（三澤公雄君） この検査結果がわかったのは。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） その検査結果のわかった日付まではちょっと今、手元にありませんけれども、その時点で採取したと。

○委員長（三澤公雄君） 採取したのは今の日付だね。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） はい。それで通常2週間程度はかかっているようですので、ですから雪がまた降ってきているというようなことで、春にもう1回、雪解け後調査しなければならないと。そのうえでどれくらいすき取らなければならないかという対応を決めなければならないということでありまして。

○委員長（三澤公雄君） ということは、11月15日と12月の2回採取したサンプルのデータは、町は報告を受けていないということですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 詳細なデータは受け取っていませんけれども、何か所調査して何か所で超過していたという報告は受けております。

○委員長（三澤公雄君） やばいものを運んで、やばそうな結果が出るって報告を受けていたんだよね。この前任者は。新幹線推進室は。ということだよ。この時点で。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） その時点で機構としては報告を町に行っていたと。ただ、どうやってもすき取らなければならないという中で、雪が降っているという中では今、その時点で工事することにはならないだろうと。雪解けを待たなければならないという判断だったというふうに報告があったということでありまして。

○委員長（三澤公雄君） それは機構が判断したということですよ。そうしたほうがいいねって機構が判断したってこと。それとも新幹線推進室も交えて、そういう判断にしようとしたってこと。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 当然機構が判断して、町としてもやむを得ないというふうに聞いたというところであります。

○委員長（三澤公雄君） へー、なんで。やばいものが運び出されて染みたかもしれないというものを、雪が降っているからって春まで放置するって。もっと広がったらどうするのって普通は思うんだけどな。違う。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） そういう意味で、春にもう1回土壌調査をして、余裕をもってすき取るということで、下層の2 mまでは問題のない数値が0.002というのがわかりましたので、本来、土量は少ないほうがいいんですけれども、そこまで、下層まで余裕をもって深堀りしたということであります。

○委員長（三澤公雄君） 賭けに勝ったかもしれないということだよ。だけどさ。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） すみません。賭けとかということではなくて、あくまでも溶出が進むかもしれないというのは可能性としては。だからその可能性として調査をして、それ以上に掘るという考え方でいたということです。

○委員長（三澤公雄君） 確かに、それで今、下層2 mまで掘削したもののデータというのはどれだっけ。0.35だよ。これをもってして全部すくったって思える根拠は。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） わかりやすく0.35から書きましたけれども、地下2 mの時点では0.002 mgだと結果が出ているということです。0.16に対して0.002ですので、かなり余裕を持ったということであります。

○委員長（三澤公雄君） 地下の浸透具合というのは、そんなにわかりやすいのかな。こいつら逃げ遅れた0.35ののろまかもしれないよね。この下に行ってるということは想像しないの。だって、秋にわかっていたものを、一冬置いておいたということを考えてときに、根拠があるんでしょ、2 m以上は浸透しないと。根拠示して。11月19日だとか、この時点での委員会でも報告しないんだよ。どこまで信じていいんだか。信じるつもりだから全部しゃべって。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 図面で右下のほうに区画を書いていると思いますけれども、このNo.10までである中で、すべてつぼ掘りして2 mまで試験をしています。それですべにおいて2 mまで0.002だったということでありますので、今、委員長が言われていることがなく0.002で多めにすき取ったということであります。

○委員長（三澤公雄君） この変わったかたちの区画より外に行っているという可能性はないの。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） それはありません。あくまでも、これも余裕をもって区画していますので。

○委員長（三澤公雄君） この形に比例した置き方をしているからということね。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） はい。

○委員長（三澤公雄君） もう一度確認ね。機構は11月19日、12月の2回サンプルを取っているということを町に報告し、町もそのことを検討して一冬超すという判断をしたということに間違いないんだね。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） はい。

○委員長（三澤公雄君） しつこいようだけれども、一冬越しても安心できるという根拠は何だったの。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） あくまでも溶出ですから、要するにその後の土量の、数量は別としても、多めにすき取って対応しなければならないという考え方はあったわけでありまして、です。2mまでいきなり掘ってということではなくて、30cmごとかな。ちゃんと調査した中で2mまで掘っていったら、調査していったら、2mまで掘れば大丈夫だというような結果であったということで、2m余裕をもって、すき取ったということでもあります。

○委員長（三澤公雄君） 盛土②という、赤線の全部の縁のラインはさ、機構が自信を持っている、染み出さない工法になっているんだよね。だからこの敷地内に濃度が濃いものが来たとしても、重金属が下に染み通っていくスピードを科学的データに基づいて計算しても、これ以上外に出ないという安心感があるから、何メートルか掘れば春には追い付くだろうという考えだったということかなと思うんだけど、そう想像するにしてもデータの裏付けがないと、はい、そうですかって言えないよね。何を根拠に。たまたま2mで追いついたけれどもさ、5m掘っても一定の濃度でずっとあるなんてことになったら、また6m、7mってどんどん掘って行くの。そういうつもりだったの。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 3月の調査では、当然、今、委員長が言われるとおりの、上限値を超える対策土がどこまであるかという調査の仕方をしていきますから、2mまでやればいいということで調査したわけではなくて、どこまで浸透しているかということで調査したということでもあります。土量にかかわらず必要な量は、たとえばそれが今言われた3mなのか5mなのか10mなのかわかりませんが、たとえば10mまで必要なのであれば、10mまでやったということでもあります。

○委員長（三澤公雄君） だからそういう判断って賭けじゃないかなって。すごく敏感な人たちは、流れたらどこに行くとか、畑まで行っちゃったらどんな保証ができるんだとか、だから危ないよと言っている人たちがいる中においてさ、やばいものがあるって、雨に染み出しているというのに、一冬置くというのが何mでも掘って追いかけるんだから大丈夫だって自信がわからないんだよね。だからそれ賭けじゃないかって言ってるの。何でそんな賭けをするの。住民の財産、命を守るとい

う立場で。まあこのときは担当じゃなかったんだろうから、想像で話すんだろうけれども。前任者でだね、ここ。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 確かに当時の協議の場に私の席はありませんでしたけれども、当然、当時実施している業者なり機構なりはそういう経験値でもって対応できるというふうに、わかっていた中で3月の調査、そのうえで今、委員長がご心配のあった何メートルまでということを守ると。

要するにそれ以上自分たちが思っていた実績というよりも経験値よりもそれ以上掘削というかすき取るという考えでいたと。あくまでも3月の調査が2mまでしか調査しないということではなくて、どこまで剥き取れば良いのかという意味での調査でありますので、その辺はご理解を願いたいというふうに思っております。

○委員長（三澤公雄君） かなり信頼を失墜させてしまった出来事のように僕は思いました。この秋に搬入されて一冬超したというところ。是非ですね、これからはこの信頼回復のためにね、更なる奮起を新幹線推進室にお願いしたいです。

このあとの土の処理の仕方、しっかりと委員会、また大久保委員が言われたように町民のそういった調査する団体にも情報提供し、八雲町は何もやましいことがないんだというところを。これは1回信用を、僕は失墜しかけたと思うイメージを持ちましたから、さらなる奮起がないといけないと思うんですが。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 立場が違うので理解していただけるかどうかわかりませんが、私としては機構がとった措置は適正であると4月7日の時点では判断しておりましたし、この間も機構は紳士的にいろんなことを報告してくれて、そんなことまで報告しなくていいということまで、こちらのほうには来ているという実態もあります。

そういう中で、機構の信頼という意味でいけば、なんら以前と同じようなかたちで思っていただければありがたいというふうに思っています。このようなことになったのはですね、私とその7日の時点で判断を誤ったというふうに思っております。そういう中で私の責任についてはですね、上のほうには今後、諮るつもりでおります。今後、どうかたちにしろですね、善処していきたいというふうに思っておりますので、申し訳ありませんでした。

○委員長（三澤公雄君） 委員の皆さんからほかにありませんか。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） すみません。確認なんですけれども、これからの方法としてね、今までこういう事実がありましたって、それだけでも、こういうふうな安心な方法をとりましたのでご安心くださいという説明は、たとえば監視団体なり漁協なりに説明はする予定はあるんですか、ないんですか

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 漁協さんなりに機構のほうから説明するように要請しております。それで機構のほうでは、いつ行うのか、もう行ったのか、そこまでは報告来ていませんけれども。

○委員（大久保健一君） 行われているかもしれないの、それ。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 昨日それ言いましたので、それが昨日のうちに行われたのか今日行ったのか、そこまではまだ報告は来ていませんけれども、そのようなかたちで対応は取っておりますし、私ども町の対応についても善処したいというふうに思っております。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） 佐藤です。三つ質問があります。

○委員長（三澤公雄君） 一つずつ聞いて。

○委員外議員（佐藤智子君） 一つ目は、こういう事態が起きた時点で、町長に報告はしてあるんですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 10月の時点の、誤ったものを持ってきて戻したというのは町長に報告してあります。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） 現在までの経過の報告はしてありますか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 遅ればせながら、こういう事態になって、仮置きについて問題になっているというのは先日、報告いたしました。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） 先日っていつですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 先日はですね、先週か、そのくらいだったと思います。はっきりは今、その記録というか。

○委員長（三澤公雄君） 僕が聞きに言ったあと。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） いや。その前。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） ということは9月に入ってから報告だということですよね。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 町長には本当に8月末か9月に入ってからだというふうに、私の記憶ではそうだと思います。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） これは室長一人が負い目を追うことではないと思うんです。

それで二つ目の質問ですけれども、盤石トンネルから出たものを盤石トンネルにまた戻したというんですけれども、その戻したヒ素が入っているものは、今どのように処置されているんですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） この黒岩に仮置きになっている工法とほぼ同じかたちで、工事のヤード内に仮置きとして処理を待っているという状況であります。

○委員長（三澤公雄君） いいですか。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） これから八雲町漁協等にも説明するようですし、それは機構が直接説明するということですが、やっぱり所管が総務経済常任委員会ですので、委員の皆さんや委員長のお考えを尊重しなければなりませんけれども、議会全体に対しても機構なりから、やはり説明がほしいと思いますが、その辺は要請していただけますか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 機構の説明と。専門家と私ども事務屋では違いがあるのかもしれませんが、ほぼ、申し訳ありませんが報告したつもりであります。ですので、機構さんからの説明をわざわざ出向いてもらってということまでは必要がないのかなど。私の説明でなんとかご理解願いたいというふうに思っております。

○委員外議員（佐藤智子君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） そちらのお考えはだいたいわかりました。あとは総務経済常任委員会としては、どこまで、どういうかたちで求めるのかというのを、ちょっと考えてもらえたらなと思います。以上で終わります。

○委員長（三澤公雄君） ほかにありませんか。

○委員（横田喜世志君） はい。

○委員長（三澤公雄君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 今のやり取りを聞いていて、8月末か9月に町長に報告したと。その前の段階、たとえば仮置き実施のあとから8月の末、もしくは9月の頭までは、一切、町長には報告されていないんですか。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 委員長、新幹線推進室長。

○委員長（三澤公雄君） 室長。

○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 特段、町長まで報告する案件だというふうには、議会に対して判断したと同じように、考えなかったものですから、していなかったということになります。

- 委員長（三澤公雄君） いいですか。
○委員（横田喜世志君） はい。
○委員長（三澤公雄君） ほかになければ、この案件に関してはこれで終わります。

（「なし」という声あり）

- 委員長（三澤公雄君） 終わります。
○新幹線推進室長（鈴木敏秋君） 申し訳ありませんでした。
○委員長（三澤公雄君） お互い、信頼回復に努めましょう。

【新幹線推進室職員退室】

◎ その他

○委員長（三澤公雄君） 2番目の報告事項、大変重大なことだと思うので、委員だけでちょっと今後のことを話し合いたいと思うんですけど、すいませんけど傍聴の方、僕たちだけで話し合いたいのでご協力お願いできませんか。

（傍聴者退席）

○委員長（三澤公雄君） このまま、公開対象で。

ずいぶん隠されたものだな、この資料も上手だよ。確かに仮置のことを問題提起したから、仮置き以降のことしかないのは求めていなかったからという。

○委員（大久保建一君） 仮置き自体が3年3月26日から4月2日とは書いてるけど、一冬いたってことでしょ。

○委員長（三澤公雄君） 僕が聞いた限りでは、去年の10月に搬入したけども、すぐやばいものとわかっていることを間違って。

○委員（大久保建一君） それ自体は戻したけど、浸みたものは一冬残っていたってことでしょ。浸みたものが3月26日から4月2日、仮置きしてたってことでしょ。だけど、よける前の浸みたものは、そこに一冬いたわけでしょ。だから、これの書き方がすごく無理があって、本来であれば、そこに搬入してしまっただけで、雨が降って浸みてからだから、令和2年の10月だか11月からの話なの。

○委員長（三澤公雄君） そう。新設にこの経過を報告するのであれば、そこから書かなければいけないのに。これ、確かに僕ら素人が現地見に行って、どれくらい役に立つかわからないけど、存在意義というのを示すためには、本会議場で道路整備してからでないと云々って言ったけど、それを待っててもたもたしていたら、何やってるんだって言われるんじゃないかと思うんだけど。

機構がこれからも、正直に町に報告してもらうための、補強材料のためには委員会も存在価値を見せなければいけないんじゃないかなと思うんですけど。

○委員（大久保建一君） 今の段階でいけば、機構が隠したかったのか、機構はちゃんと町に報告していたけども、町が報告の必要がないという判断をしたのか、そこら辺がすごく曖昧なんだよね。だから、信用できないというのが、町なのか機構なのかわからない。

○委員長（三澤公雄君） 機構の説明を、室長、断ったけど、僕ら今回の資料を持って、この時期には町に報告したんですよって言って、そのことは怠ってましたなんて向こうが言ったら、これがまた崩れちゃうわけで。でもそういう裏取らないと。

○委員（大久保建一君） それとね、本来であれば要対策土というだけで、基準値内だけでも受入地が見つからないような状態だよ。それを、受け入れてくれる地域が、機構も町も信用してるからの前提なのさ。それを報告してないんだから、なんらかの申入れはしなければだめなのかなと。委員会になるのか、議会になるのか。でないと町民から議会が信用されなくなると思う。

○委員長（三澤公雄君） 北斗市議会みたいなことになっちゃうから。

○副委員長（牧野 仁君） 北斗市でもそういう事例あったから、余計にね。

○委員（大久保建一君） 今後、機構といい関係を作っていくうえでも、絶対これは必要だと思う。

○委員長（三澤公雄君） お互いのこれからのためにね。

○副委員長（牧野 仁君） 向こうは、たいしたことないと思ってるかもしれないから。

○委員（大久保建一君） でないと、信じられなくなっちゃうよ、向こうから出された資料が。

○委員長（三澤公雄君） 室長が言っていることが正しいということになれば、僕らも主張しに行くけどさ。機構の言ってることを変にかばっているのかもしれないし、そのとおりのかもしれないし。

ということは、機構に聞いてみるということですよ。

○委員（大久保建一君） 言ってみて、機構と直接、話ができないのであれば。

○委員長（三澤公雄君） 室を通さなくてもできるでしょ。

○議会事務局次長（成田真介君） 難しいと思います。

○委員（大久保建一君） それか、これをね、経過をきちんと調査して、再度報告してくれって言うかさ。

○委員長（三澤公雄君） 次長、今、無理だっけいったけどさ、室長が言ったことが、すべてかどうか確認したいといったら、室長通さないで機構から聞くしかないんじゃないの。

○議会事務局次長（成田真介君） 前みたいに、勉強会的なかたちで開いて、どっちにしろ、室を通さないでというのは。

○委員長（三澤公雄君） 委員会の調査権というのは。

○議会事務局長（三澤 聡君） 機構は外部機関ですから。意見交換というかたちでやるとした時には。

○議会事務局次長（成田真介君） たとえば意見交換会の中で、新幹線推進室を通したうえで、機構と委員会とで、そこで室を入れないでというのは可能かもしれませんが、どちらにしろ推進室を通さないで話をするのはちょっと。そこで新幹線推進室の了解を得たうえで、機構と委員会の話し合いというのは、それは可能かも知れませんが、直接、機構に対して話をするのは。

○委員長（三澤公雄君） 新幹線推進室の顔もあるからね。一方でさ、答弁したこと、10月22日に間違っって搬入始まったとか、そういうのは報告受けていたんだから、公文書あるよね。今回、質疑したことの裏付け資料の提出を求めて、一方で、機構とも話し合いたいと。

○議会事務局長（三澤 聡君） 今日の、新幹線推進室からの報告を受けて、委員会として、今日の報告で疑問がある点を、もう一回、新幹線推進室に回答もしくは出席を求めて、この件について、委員会で調査をすると。

○委員長（三澤公雄君） 疑問はないんだよね。言ったことが本当かどうかを確認するだけさ。

○委員（大久保建一君） 疑問じゃなくても、何かしらの、今日の答弁の裏付け資料を提出しろってことはできるんじゃないの。

○議会事務局長（三澤 聡君） その調査にあたって、10月22日からの経過をもっと説明してくれと、というようなことを求めて、もう一回、委員会を開くと。

○委員長（三澤公雄君） それを求めると、鈴木君なんか頭いいからね、さっき言ったでしょと、また同じことしゃべらすのかいって。みんな、言ったことについては整理ついたんだから。その言ったことを本当かどうか裏付ける資料は、彼らも戻らなきゃできないわけだから。だから、一回戻したということ。

○委員（大久保健一君） だから、その資料を求めることはできるでしょ。

○委員長（三澤公雄君） 質問じゃない。今言ったことを裏付ける公文書が欲しい。

○委員（大久保健一君） それと、この資料の作り方自体が、浸み出したものの保存期間とかしか書いていないから、ちゃんと搬入された時からの、時系列をきちんと。

○委員長（三澤公雄君） 時系列に合わせた資料にして、それを裏付ける資料も添付して、もう一回ちゃんと。

○委員（大久保健一君） できれば、その搬入された時からの水質調査、周一回ずっとやられてきたのか、その水質調査の結果も出してもらえばいい。でないと、地域住民に、大丈夫でしたよって言えないんでないの。

○委員長（三澤公雄君） その資料をもって僕らも、疑問を持つ町民に話せるしき。一方で機構にもやっぱり。

○委員（大久保健一君） 機構に来てもらうのが一番いいだろうけど。機構は報告したけども、推進室が報告を怠っていただけなのかもしれないし。

○議会事務局長（三澤 聡君） そういうふうには言っていましたけども。

○委員長（三澤公雄君） そういう理解で終わったんだけど。

○委員（大久保健一君） だけど本当のことはわからないから。

○委員長（三澤公雄君） 室長通して機構を呼ぶんだからさ。そこからの時系列と、それに則った水質検査の報告も一緒に並列して、というところを委員会でもらわないと。

○委員（大久保健一君） このあと、要対策土の土地なんて見つからなくなるよ、このままだったら。

○議会事務局長（三澤 聡君） 委員会の調査事項として、町のほうに申し入れて出席を求めると。

○委員長（三澤公雄君） 機構どうする。呼ぶ。

○委員（大久保健一君） 室長がすべてを説明できるんだったらいいかもしれないけど。だけど機構のほうでも地元で説明する義務もあるんじゃないの。機構は説明することはだめとは思ってないと思うよ。委員会に対して。

○委員長（三澤公雄君） あそこも、上の人、入れ替わり激しいからさ。この時の責任者と違うかもしれないけど。

○委員（宮本雅晴君） 呼んだほうがいいんでないの。

○委員長（三澤公雄君） 一応、手続き的にはそうやって。やりましょう。僕らも任期があるし、定例会中に資料欲しいよね。いいですか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局次長（成田真介君） あ、ちょっと話変わるんですが、次回の常任委員会の日程で、実はですね、選挙前なんですけども、会計課で1件ありまして、10月1日をどうかということで、今、考えています。そういう日程に合わせて出席を求めるということであれば、その日を予定。

○委員（大久保建一君） まずこの件に関しては、もし来てくれるんだったら、機構さんが優先でいいんでない。本来であれば、10月1日に合わせれば、いっぺんで済んじゃうかもしれないけど、あまり長引かせないほうがいいんじゃないのかなと思う。残土の関係は。

○委員長（三澤公雄君） しゃべった資料をまとめて、その根拠を裏付けるということは定例会中をお願いしたい。資料は。

○委員（大久保建一君） 機構だって、町に言った時、手ぶらでは来ないと思う。絶対、示すもの持ってくると思うんだ。

（何か言う声あり）

○委員（大久保建一君） やってしまったことは仕方ない。だけど今後を考えたら。しておかないとまずいと思う。

（何か言う声あり）

○委員長（三澤公雄君） はい、今日のご協力ありがとうございました。これからも頑張りましょう。

〔閉会 午後 3時10分〕